

MUFG BK CHINA WEEKLY

三菱 UFJ 銀行 国際業務部

SEPTEMBER 16TH 2020

■ WEEKLY DIGEST

【経 済】

- 8月の主要経済指標 回復基調が鮮明に 消費はプラスに転換
 - －【生産・投資・消費】生産は5ヵ月連続プラス、消費はプラスに転換、投資は減少幅縮小
 - －【物価】8月のCPI 2.4%上昇、PPIは7ヵ月連続のマイナス
 - －【雇用】失業率は5.6%に改善
 - －【貿易】輸出は伸びが拡大、輸入は低迷
 - －【直接投資】対内直接投資 15%増、2ヵ月連続で2桁の伸び
- 8月の自動車販売 前年同月比+11.6% 5ヵ月連続のプラス

■ RMB REVIEW

- ドル安一服で上げ渋る展開

■ EXPERT VIEW

- 中華人民共和国契税法

本邦におけるご照会先:

三菱UFJ銀行国際業務部 東京:03-6259-6695 (代表) 大阪:06-6206-8434 (代表) 名古屋:052-211-0544 (代表)

- ・本資料は情報提供を唯一の目的としたものであり、金融商品の売買や投資などの勧誘を目的としたものではありません。本資料の中に銀行取引や同取引に関連する記載がある場合、弊行がそれらの取引を応諾したこと、またそれらの取引の実行を推奨することを意味するものではなく、それらの取引の妥当性や、適法性等について保証するものでもありません。
- ・本資料の記述は弊行内で作成したものを含め弊行の統一された考えを表明したものではありません。
- ・本資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。最終判断はご自身で行っていただきますようお願いいたします。本資料に基づく投資決定、経営上の判断、その他全ての行為によって如何なる損害を受けた場合にも、弊行ならびに原資料提供者は一切の責任を負いません。実際の適用につきましては、別途、公認会計士、税理士、弁護士にご確認いただきますようお願いいたします。
- ・本資料の知的財産権は全て原資料提供者または株式会社三菱UFJ銀行に帰属します。本資料の本文の一部または全部について、第三者への開示および複製、販売、その他如何なる方法においても、第三者への提供を禁じます。
- ・本資料の内容は予告なく変更される場合があります。

WEEKLY DIGEST

【経済】

◆8月の主要経済指標 回復基調が鮮明に 消費はプラスに転換

国家統計局は15日、8月の主要経済指標を発表した。8月は水害等の影響を受けたものの、生産・投資・消費ともに前月から一段と改善し、特に消費は今年に入って初めてプラスに転じ、回復基調が鮮明になった(図表1・2)。一方で、コロナ感染症の世界的流行の収束の兆しが見えず、主要国の景気後退など外部の不確定要因が多く、国内でも構造的矛盾が顕著で、雇用と企業の安定に対する大きな圧力に直面しており、同局は、今後の回復への道は平坦ではないと指摘した。

【図表1】8月の主要経済指標

項 目	2020年7月			2020年8月		
	金 額	前年比(%)		金 額	前年比(%)	
固定資産投資 (除く農村企業投資)*	(億元)	329,214	▲1.6	(億元)	378,834	▲0.3
うち、国有部門	(億元)	(未発表)	3.8	(億元)	(未発表)	3.2
うち、民間部門	(億元)	184,186	▲5.7	(億元)	214,506	▲2.8
産業別						
第一次産業	(億元)	9,806	7.7	(億元)	11,063	11.5
第二次産業	(億元)	100,119	▲7.4	(億元)	112,122	▲4.8
第三次産業	(億元)	219,289	0.8	(億元)	255,649	1.4
工業生産(付加価値ベース)**	-	-	4.8	-	-	5.6
社会消費財小売総額	(億元)	32,203	▲1.1	(億元)	33,571	0.5
消費者物価上昇率(CPI)	-	-	2.7	-	-	2.4
工業生産者出荷価格(PPI)	-	-	▲2.4	-	-	▲2.0
工業生産者購買価格	-	-	▲3.3	-	-	▲2.5
輸出	(億米ドル)	2,376.3	7.2	(億米ドル)	2,352.6	9.5
輸入	(億米ドル)	1,753.0	▲1.4	(億米ドル)	1,763.3	▲2.1
貿易収支	(億米ドル)	623.3	-	(億米ドル)	589.3	-
対内直接投資(実行ベース)*	(億米ドル)	90.5	12.2	(億米ドル)	120.3	15.0

*: 年初からの累計ベース。

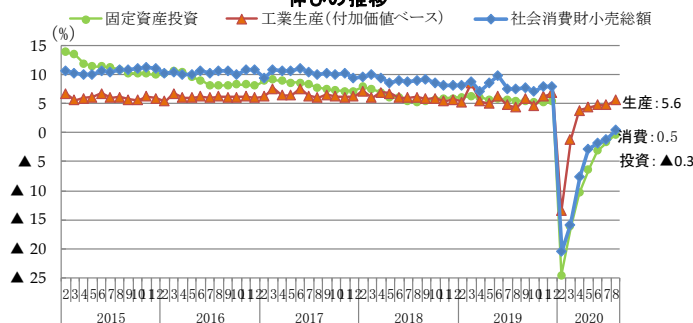
**：独立会計の国有企業と年間販売額2,000万元以上の非国有企業を対象。

(出所) 国家統計局等の公表データを基に作成。

【生産・投資・消費】生産は5ヵ月連続プラス、消費はプラスに転換、投資は減少幅縮小

8月の工業生産は前年同月比+5.6%と前月から0.8ポイント上昇し、5ヵ月連続でプラスを維持した。社会消費財小売総額は前年同月比+0.5%と8ヵ月ぶりにプラスに回復した。固定資産投資(1-8月)も前年同期比▲0.3%とマイナスになったものの、6ヵ月連続で改善した(図表2)。

【図表2】固定資産投資・工業生産・社会消費財小売額の伸びの推移

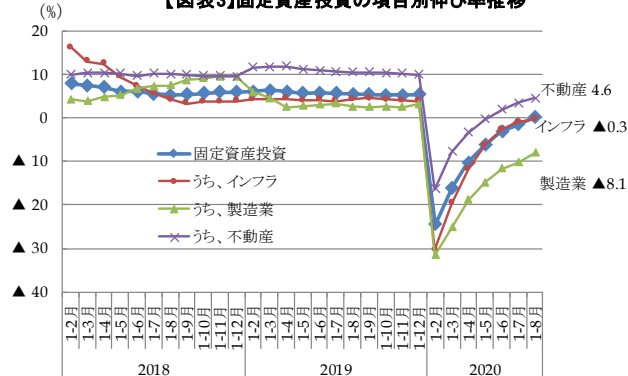


(注) 固定資産投資は年初からの累計値

工業生産と社会消費財小売総額は2月のみ1-2月の累計値

(出所) 国家統計局の公表データを基に作成

【図表3】固定資産投資の項目別伸び率推移



(出所) 国家統計局の公表データを基に作成

工業生産を産業別に見ると、設備製造業が前年同月比+10.8%、ハイテク製造業が同+7.6%と全体平均の同+5.6%を上回り、中でも掘削機械、産業ロボット、スマートフォン、集積回路、パソコンの生産量がそれぞれ前年同月比+34.1%、+32.5%、+12.1%、+12.1%、+12.0%と大きく伸びた。

消費を分野別に見ると、消費財は前年同月比+1.5% (7月:同+0.2%)、飲食は同▲7.0% (7月:同▲11.0%)と、引き続き人の集まりや接触を伴う飲食はマイナスとなった。消費財のうち、通信機器が同+25.1%、化粧品が同+19.0%、自動車は同+11.8%と高く伸びた。同局は、足元では映画館や観光の入場制限が徐々に緩和され、国民の外出も増えていると指摘し、8月下旬の興行収入は前年同期の9割まで回復したことや、入場チケットの購入が殺到する観光スポットが出ていることを挙げ、今後一層の消費回復が期待できるとの見方を示した。

投資(1-8月)を分野別にみると、不動産投資は前年同期比+4.6%と伸び幅は前月から1.2ポイント拡大した。インフラ投資は同▲0.3%、製造業は同▲8.1%とマイナスながら、減少幅は前月からそれぞれ0.7ポイント、2.1ポイント縮小し、いずれの指標も6ヵ月連続で改善した(図表3)。

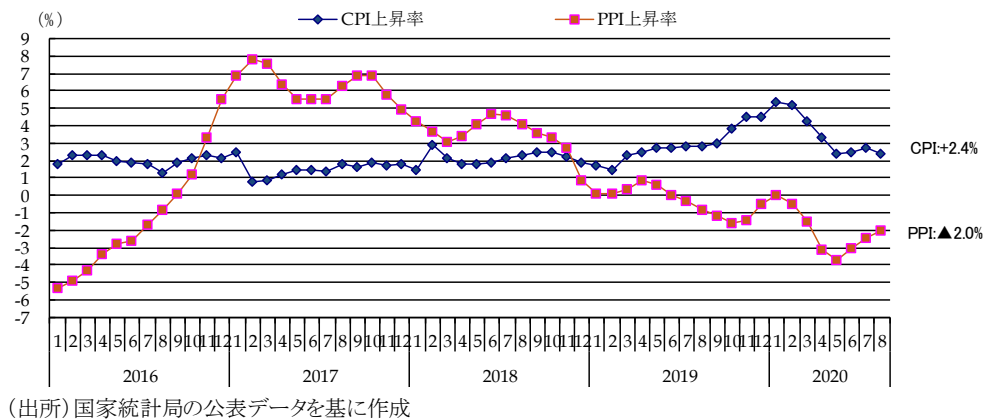
【物価】8月のCPI 2.4%上昇、PPIは7ヵ月連続のマイナス

8月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+2.4%と、上昇幅は前月から0.3ポイント縮小した(図表4)。項目別では、食品が同+11.2% (7月:同+13.2%)、非食品が+0.1% (7月:横這い)と、食品の上昇幅は縮小したものの、依然として2桁の上昇が続いている。

食品のうち、豚肉は同+52.6% (7月:同+85.7%)と高止まりにある。豚肉の供給は、改善しつつあるものの、需要の増加に追いつかない状況となっている。また、高温と豪雨の影響を受け、野菜も同+11.7% (7月:同+7.9%)と上昇幅が前月から拡大した。

8月の工業生産者出荷価格指数(PPI)は前年同月比▲2.0%と、下落幅は前月から0.4ポイント縮小し、3ヵ月連続で縮小したものの、依然としてマイナスが続いている(図表4)。同局は下落幅の縮小について、石油、鉄鉱石などの国際商品価格の持ち直しや国内生産や需要回復によるものとしている。

【図表4】CPI、PPIの月別推移



【雇用】失業率は5.6%に改善

8月末の都市部調査失業率は5.6%と前月から0.1ポイント改善した。一方、1-8月の都市部新規就業者数は781万人と、前年同期比203万人減少した。また、8月末の専門学校・大卒者が中心となる20~24歳の調査失業率は前年同月比5.4ポイント上昇、7月末よりさらに2.1ポイント拡大し、若者の雇用情勢は依然として厳しい状況にある。

【貿易】輸出は伸びが拡大、輸入は低迷

税関総署が7日に発表した貿易統計速報(米ドル建て)によると、8月の輸出は前年同月比+9.5% (7月:同+7.2%)の2,352.6億ドル、輸入は同▲2.1% (7月:同▲1.4%)の1,763.3億ドルと、輸出の伸び幅は拡大した一方、輸入は前月に続き前年割れとなり、マイナス幅はさらに拡大した(図表5・6)。

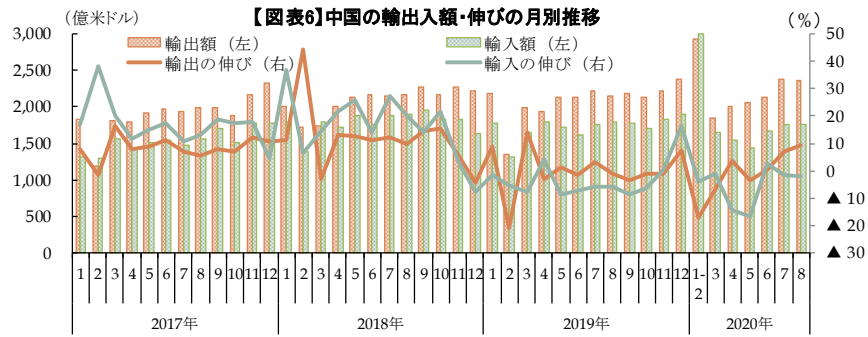
1-8月の累計では、輸出は前年同期比▲2.3%(1-7月:同▲4.1%)の1兆5,716.4億ドル、輸入は同▲5.2%の1兆2,825.8億ドル(1-7月:同▲5.7%)、貿易収支は2,890.6億ドルの黒字だった。

【図表5】2020年8月貿易統計の概要

2020年8月の貿易統計(億米ドル)		
	金額	前年同月比
輸出	2,352.6	9.5%
輸入	1,763.3	▲2.1%
貿易収支	589.3	-
2020年1-8月の貿易統計(億米ドル)		
	金額	前年同期比
輸出	15,716.4	▲2.3%
輸入	12,825.8	▲5.2%
貿易収支	2,890.6	-

(出所) 税関総署の公表データを基に作成

【図表6】中国の輸出入額・伸びの月別推移



(出所) 税関総署の公表データを基に作成

1-8月の累計を商品別で見ると、輸出では、医療機器が同+46.1%の120.0億ドル、マスクを含む紡績品が前年同期比+33.4%の1,048.0億ドル、集積回路が同+11.3%の715.2億ドル、家電製品が同+10.5%の397.1億ドルなど、防疫物資に加え半導体関連や家電製品の伸びが高かった。

輸入では、未鍛造銅・銅材が前年同期比+27.3%の261.7億ドル、化粧品が同+22.9%の120.4億ドル、農産物が同+12.1%の1,091.9億ドル、集積回路が同+11.8%の2,150.9億ドルと高い伸びを示した。

国・地域別の輸出入総額を見ると、1-8月の累計で、ASEANが前年同期比+3.8%の4,165.5億ドルと、EUの4,009.6億ドル(同▲1.5%)を上回り、引き続き中国の最大の貿易パートナーとなっている(図表7)。

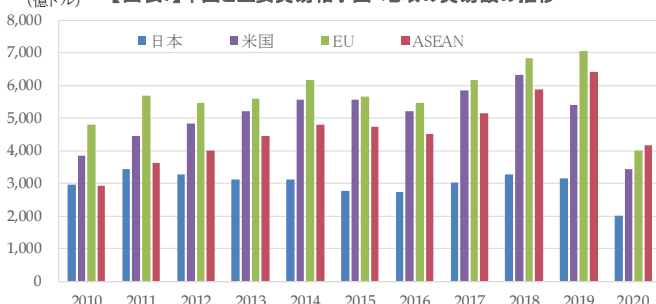
対日貿易は、1-8月の輸出が前年同期比▲2.7%(1-7月:同▲3.0%)の909.2億ドル、輸入が同▲1.4%(1-7月:同▲1.5%)の1,092.3億ドル、対米貿易は、1-8月の輸出が同▲3.6%(1-7月:同▲7.3%)の2,660.6億ドル、輸入が同▲2.9%(1-7月:同▲3.5%)の782.4億ドルと、両国ともに輸出入のいずれもマイナスが続いているものの、マイナス幅は縮小した(図表8)。

【図表8】2020年1~8月 国・地域別輸出・輸入額と伸び率

国・地域	輸出	前年 同期比	輸入	前年 同期比	貿易 収支	輸出入 総額	前年 同期比
米国	2,660.6	▲3.6%	782.4	▲2.9%	1,878.2	3,443.0	▲3.5%
日本	909.2	▲2.7%	1,092.3	▲1.4%	▲183.1	2,001.5	▲2.0%
韓国	708.0	▲3.1%	1,089.4	▲4.1%	▲381.4	1,797.4	▲3.7%
香港	1,608.3	▲8.5%	41.0	▲32.1%	1,567.2	1,649.3	▲9.3%
台湾	377.3	8.1%	1,211.9	10.6%	▲834.6	1,589.3	10.0%
ドイツ	548.2	3.9%	631.5	▲10.0%	▲83.2	1,179.7	▲4.0%
ベトナム	670.8	8.9%	441.7	20.9%	229.1	1,112.4	13.4%
オーストラリア	320.9	7.5%	757.3	▲7.5%	▲436.4	1,078.2	▲3.5%
マレーシア	332.6	1.1%	468.0	3.1%	▲135.4	800.6	2.3%
ブラジル	199.6	▲9.2%	545.4	5.5%	▲345.9	745.0	1.1%

(注) 輸出入総額のトップ10国・地域
(出所) 税関総署の公表データを基に作成

【図表7】中国と主要貿易相手国・地域の貿易額の推移



(出所) 税関総署の発表を基に作成

【直接投資】対内直接投資 15%増、2ヵ月連続で2桁の伸び

商務部の11日の発表によると、8月の対内直接投資額は前年同月比+15.0%(7月:同+12.2%)の120.3億ドルと、2ヵ月連続で2桁の伸びを維持した(図表9)。1-8月の累計では、前年同期比▲0.3%(1-7月:▲2.3%)の890.0億ドルだった。

1-8 月の累計を業種別で見ると(人民元建て)、サービス産業向けが前年同期比+12.1%、うち、研究開発設計サービスが同+47.3%、情報サービスが同+24.0%と高い伸びを示した。

1-8 月の累計を国・地域別で見ると(人民元建て)、オランダからが前年同期比+73.6%、英国からが同+17.2%と大きく伸びた。

【図表9】中国対内直接投資の月次推移



【産業】

◆8月の自動車販売 前年同月比+11.6% 5ヵ月連続のプラス

中国自動車工業協会の10日の発表によると、8月の自動車販売台数は、前年同月比+11.6%の218.6万台(7月:同+16.4%の211.2万台)と、5ヶ月連続で前年を上回り、4ヵ月連続の2桁成長を維持した。1-8月の累計では、前年同期比▲9.7%の1,455.1万台と、減少幅は1-7月の▲12.7%から縮小した(図表1・2)。

【図表1】自動車販売台数の月次推移



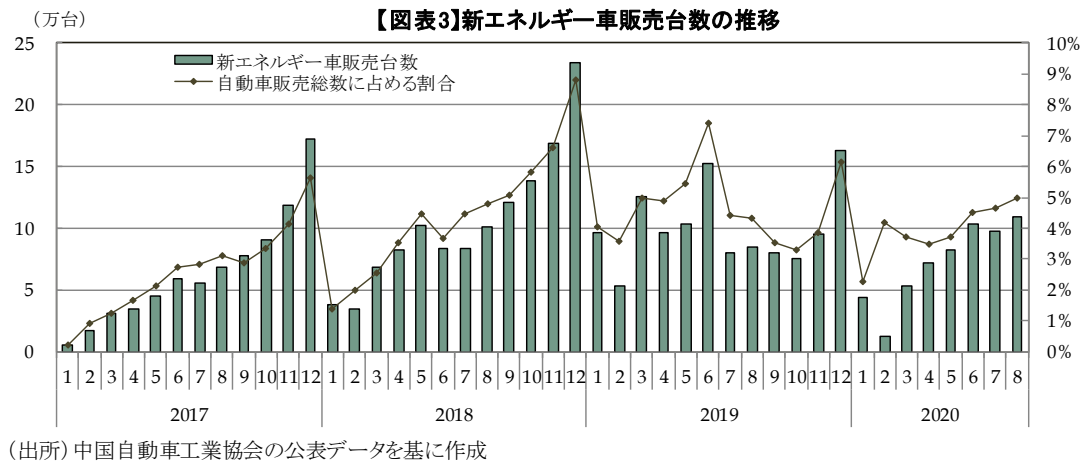
【図表2】2020年8月の自動車販売台数と伸び率

	2020年8月		2020年1-8月	
	販売台数 (万台)	前年同月比	販売台数 (万台)	前年同期比
自動車販売台数	218.6	11.6%	1,455.1	▲9.7%
乗用車	175.5	6.0%	1,128.8	▲15.4%
商用車	43.1	41.6%	326.3	17.3%
新エネルギー車	10.9	25.8%	59.6	▲26.4%
電気自動車(EV)	8.8	25.6%	46.6	▲27.8%
プラグインハイブリッド車(PHV)	2.1	26.1%	12.9	▲20.8%
燃料電池車(FCV)	121台	536.8%	578台	▲48.6%

(出所) 中国自動車工業協会の公表データを基に作成

車種別に見ると、8月の乗用車販売は前年同月比+6.0%の175.5万台(7月:同+8.5%の166.5万台)と4ヶ月連続で前年を上回った。また商用車は同+41.6%の43.1万台(6月:+59.4%の44.7万台)と堅調な伸びを維持し、全体を牽引した(図表2)。

また、7月にプラスに転じた新エネルギー車(NEV)販売は8月も前年同月比+25.8%の10.9万台と好調が続いた。うち、電気自動車(EV)は同+25.6%の8.8万台、プラグインハイブリッド車(PHV)は同+26.1%の2.1万台、燃料電池車(FCV)は同+536.8%の121台と、FCVは販売台数は少ないものの大きく増加した。同協会は政府の支援策や農村地域での普及キャンペーン等の効果と分析している(図表2・3)。



8月の中資系ブランドの乗用車販売台数は前年同月比+6.3%の65.5万台、乗用車販売に占める割合は37.3%と、シェアは前月から2.2ポイント拡大した。同協会は、自動車の消費構造に変化が現れており、低価格車が低迷する一方、中・高価格車が好調な中、中資系メーカーが高級車に生産を注力したことがシェア拡大に繋がったとしている。

RMB REVIEW

◆ドル安一服で上げ渋る展開

・今週(9/7～)のレビュー

今週の人民元(対ドル)相場は、ここもとのドル安に対する調整から、対ユーロを中心にドル買い戻しの動きが強まったことで、200 週移動平均 6.8106 を前に、6.8 台前半で上げ渋る展開となった(第 1 図、第 2 図)。人民元相場は、週初 7 日に 6.8299 で寄り付いた後、8 月の中国貿易統計で輸出が市場予想を上回り、3 ヶ月連続で増加したことも支えとなって底堅く推移した。だが、8 日、トランプ米大統領がホワイトハウスでの記者会見で、中国とのデカップリングに言及したことを受け(後述)、人民元は下落。週央 9 日には安値 6.856 まで弱含む場面が見られた。週後半にかけては、主要各国での中銀会合が予定される中、市場の様子見姿勢が強まり、人民元相場は 6.83 近辺で方向感の出ない展開となった。本稿執筆時点(11 日午前 10 時)では、6.83 台後半で概ね横ばい圏での推移となっている。

・来週の見通し

米大統領選挙が近づく中、今週も 7 日にトランプ大統領がデカップリングにより中国から雇用を取り戻すと発言するとともに、民主党のバイデン候補が大統領になれば、米国が中国に所有される状態となると警告するなど、米中対立をめぐるヘッドラインが出ている。もっとも、急激な対立先鋭化を示唆するものではないことから、警戒感の高まりはそれほど大きな動きとはなっておらず、人民元安圧力が強まる展開も予想にくい。人民元相場は、対ドルで年初来高値を更新した先週に比べると、全般的なドル安の調整もあり、200 週移動平均 6.8106 手前の水準で上げ渋る展開が続いている。これまで上昇基調となっていた米株価も足もとで調整の動きが強まる中、米ドル安の巻き戻しもあり、人民元の上値は重くなろう。もっとも、中国外国為替取引システム(CFETS)の公表している人民元指数でみても、依然元安寄りの水準となっていることから、大幅な元安方向への傾斜も見込みにくい。そのため、来週の人民元相場も、引き続き横ばい圏での推移を見込む

第 1 図：人民元対ドル相場



第 2 図：人民元対ドル相場(週足)と 200 週移動平均



(9 月 11 日作成) グローバルマーケットリサーチ

MUFG BK CHINA WEEKLY (September 16th 2020)

日付	USD				JPY(100JPY)		HKD		EUR		金利 (1wk)	上海A株 指数	
	Open	Range	Close	前日比	Close	前日比	Close	前日比	Close	前日比			前日比
2020.09.07	6.8300	6.8259~ 6.8344	6.8302	-0.0091	6.4343	-0.0068	0.8813	-0.0012	8.0902	-0.0092	2.1565	3,450.71	-65.9300
2020.09.08	6.8335	6.8277~ 6.8378	6.8316	0.0014	6.4299	-0.0044	0.8814	0.0001	8.0723	-0.0179	2.2000	3,475.79	25.0770
2020.09.09	6.8494	6.8438~ 6.8565	6.8460	0.0144	6.4572	0.0273	0.8832	0.0018	8.0619	-0.0104	1.6500	3,411.05	-64.7410
2020.09.10	6.8330	6.8330~ 6.8429	6.8398	-0.0062	6.4511	-0.0061	0.8824	-0.0008	8.0902	0.0283	2.0000	3,390.30	-20.7460
2020.09.11	6.8389	6.8304~ 6.8395	6.8369	-0.0029	6.4368	-0.0143	0.8820	-0.0004	8.0959	0.0057	2.1700	3,417.02	26.7180

(資料) 中国外貨取引センター、中国人民銀行、上海証券取引所資料より三菱 UFJ 銀行国際業務部作成

中華人民共和国契税法

上海衆逸企業管理諮詢有限公司
(上海ユナイテッド アチーブメント コンサルティング)
執行董事 鈴木康伸(日本国公認会計士)

2020年8月11日の十三回全国人民代表大会常務委員会第二十一回会議において新契税法¹が決議、公布されました。当法は全十六条から構成されており、契税の対象取引、税率、計算方法、納税方法、納税先税務機関、施行日などを規定しています。

契税の対象取引

中華人民共和国内の土地、建物の権利譲渡において、譲渡先の組織及び個人が契税の納税者であり、本法の規定に基づき契税を納付します。

本法で定義する土地、建物の権利は以下に列挙するものとなります。

- (一) 土地所有権の払下げ
- (二) 土地所有権の転売、ここには有償譲渡、贈与、交換を含む
- (三) 建物の売買、贈与、交換

税率

契税の税率は百分の三から百分の五の範囲で決定され、具体的な適用税率は、各省、自治区、直轄地の人民政府が当該範囲内において提起し、同レベルの人民代表大会常務委員会によって決定され、全国人民代表大会常務委員会及び国务院に対して届け出を行います。

契税の計算

(一) 土地所有権の譲渡、売却、建物の売買においては、土地、建物の権利の移譲契約で確定した取引価格、対価として支払う貨幣及び現物、その他の経済的利益に対応する価格を計算基礎とします。

(二) 土地所有権の交換、建物の交換においては、交換する土地所有権、建物の価格の差額を計算基礎とします。

(三) 土地所有権の贈与、建物の贈与、その他価格の無い土地、建物の権利の譲渡を行う場合において税務機関は土地所有権の売却、建物の売買の市場価格に基づき価格を決定します。

納税者が申告した取引価格や交換価格差額が正当な理由なく著しく低い場合、税務機関は「中華人民共

¹ 「中華人民共和国契税法」原文は国家税務総局ウェブサイトで閲覧できます。
<http://www.chinatax.gov.cn/chinatax/n375/c5155444/content.html>

和国税収徴収管理法」の規定によって価格を認定します。

契税の納税額は課税額に各省、自治区、直轄地の人民政府が定めた税率を乗じて計算します。

納税義務の発生

納税者に対する契税の納税義務の発生は、納税者が土地、建物の権利の譲渡の契約書を締結した当日、あるいは納税者がその他土地、建物の権利の譲渡に関する契約性のある書類を取得した当日となります。

納税期限

納税者は法律に基づき土地、建物の権利の登記手続を実施する前までに契税の申告、納付を行わなければならない。

徴税管理部門

契税は土地、建物の所在地の税務機関が本法及び「中華人民共和国税収徴収管理法」の規定に基づき徴収管理を行います。

納税証明書

納税者が納税完了後、税務機関は契税の納税証明書を発行します。規定に基づき契税を納付していない場合、不動産登記機構は土地、建物の権利登記を実施しません。

税金の返還

法に基づき土地、建物の権利を登記する前に権利の譲渡契約書、権利の譲渡契約の性質のある書類が効力を発揮せず、無効となり、取り消しあるいは解除された場合、納税者は税務機関に対して納付済みの税金の返還申請を行うことができます。

罰則規定

納税者、税務機関及びその他実務者が本法の規定に違反した場合、「中華人民共和国税収徴収管理法」及び関連法律法規の規定に基づき法的責任を追求されます。

施行日

本法は2021年9月1日より施行されます。1997年7月7日に国務院によって交付された「中華人民共和国契税暫定条例」は同日廃止となります。

以上